

■素晴らしい体験ができました

- 22 年度情報科学部修学旅行 -

パリ班 (11/20~25)

修学旅行中巡った場所はとても鮮明に覚えています。ポンピドゥーセンター、ベルサイユ宮殿、ノートルダム寺院やサントシャペル教会のステンドグラスが印象的ですが、本音を言うとフランス全てが最高でした。どこへ行っても楽しくて素晴らしくて移動中も寝るのがもったいなくて写真ばかり撮っていたくらいです。今すぐにも、またフランスに行きたい。住みたいです。どう考えても五日は少なかったと思います。なんだかクラスの人とも仲良くなれた気がしますし、フランスマジックすごいなあと思いました。

D2-1 寺田 万里奈



ベルサイユ宮殿にて

ハワイ班 (11/20~25)

ハワイに来て初めて感じたのが、暖かい気候ときれいな海の風景でした。天候にも恵まれ、海の潮風が心地良かったです。

パールハーバーでは戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、ダイヤモンドヘッド登山では頂上からワイキキビーチのきれいな景色を見渡し、ポリネシヤカルチャーセンターではファイヤードアンスをはじめ先住民の文化に触れ、他にもハワイの魅力を感じ、一生思い出に残る修学旅行になりました。

いつか、またハワイに行きたいです。

E2-1 磯 雄太郎



ワイキキビーチにて

沖縄班 (11/21~25)

220 名が参加した沖縄への修学旅行は、様々なことを学び有意義なものとなりました。

美ら海水族館では、その大きさや周辺の景色の美しさに感動させられ、国際通りでは、友達と買い物をしたり食事をしたり、とても楽しい時間を過ごしました。

そして、ひめゆりの塔や摩文仁の丘では、戦争の悲惨さや過酷さを学び、生存者の方からお話を聞き、涙が出そうになりました。戦争の恐ろしさを痛感し、もう戦争が起きることのない今のような平和が続くことを願わずにはいられません。

修学旅行を通して、自分自身成長し、多くの思い出を刻み、とてもいい勉強ができました。

L2-1 吉葉 美雪



ひめゆりの塔で平和の祈り

■高校生映画コンクールで 2 位に！

- 映画甲子園 2010 に出品 -

このような大きな賞に選ばれ、大変嬉しく思います。この作品は「ダジャレ」を主なテーマとしており、馬鹿馬鹿しいことを本気でやるというコンセプトで、少年たちが駄洒落で闘いながら成長する姿を描いたバトル・コメディです。どうすれば笑いを取れるのか悩み、苦労しました。だからこそ賞を取ったときの感動が大きかったのだと思います。



協力して頂いた先生方、そして演劇部の皆さんには本当に感謝しています。

D3-1 鈴木 哲也

■クラス立案の校外学習から

美術デザイン科 1-2

「ゴッホ展」を見学

誰もが知っている「ゴッホ」の展覧会なので混雑を心配していたが、平日ということもあり思っていたほどではなかった。生徒たちも飽きることなく人垣を縫って鑑賞していました。丁度、実習の授業でも着彩画を制作しているので、色の使い方などを質問してくる生徒もいました。展覧会も「いかにしてゴッホになったのか」という趣旨で構成され、ゴッホ以外の関連する絵もあって、ゴッホの成長の過程が分かり易く展示されていた。また、国立新美術館の建物も素晴らしく充実した一日を過ごすことができました。



田子 薫 教諭

普通科総合選択コース 1-3

スケート実習

11月15日(月)、今年度2回目となるクラス最後の「校外実習」となります。LHR の時間にクラス全員で案を出し合い、決定しました。クラスの中にはマイスケート靴を持っている生徒が3人いて、かなりの上級者もありました。ほとんどが初心者で、初めてスケートをする生徒も数名いました。

はじめ、氷上に立つことがやっとの人も1時間もすると、一人で滑れるようになっていました。転んでは歓声が上がリ、地元の小学生との交流もあって、とても楽しい「スケート実習」となりました。

大島 勇 教諭



■教員紹介

陶芸を始めて5年。拙い自分の作品が増えるたびに、何とも言えない至福の喜びを感じる。真っ白なご飯をよそった茶碗、色とりどりのおかずを盛り付けた皿……。自分で作った器に盛り付けると、どんな料理も実際より数段豪華で、美味しそうなものへと変身する。自惚れと揶揄されてしまうかもしれないが、会心の出来映え(どんな駄作であっても)に自然と笑みもこぼれる。

陶芸には「作る」楽しみと「使う」楽しみの両方がある。自分で作った器で生活を彩り、楽しむことができることほど、最高に贅沢なことはないだろう。冷たい粘土の感触の心地よさ、無から形あるものへと変化する面白さ、自分の思い通りに仕上げることの難しさゆえの楽しさ……。陶芸の魅力を感じるたびに、ますます陶芸の世界に魅了される。

今冬も私の粘土遊びはまだまだ続いていく。



国語科 岡 悦子 教諭

■編集者から

多くの方が趣味を持って、余暇を楽しんでいることと思います。趣味は心を癒してくれるものと感じています。

15年前、長い間欲しくても手に入らなかった「フジペット」という昭和30頃発売になった子ども向けのカメラを買うことができました。体がだるく何もする気持のない時、そのカメラを手にし、ファインダーをのぞいたりシャッターを切ったりすると、体に元気がみなぎってくるのを感じます。そのように感じる方は多くいるものと思います。生徒の皆さんの中には、これから趣味を持つようになる人もいます。趣味は心を癒してくれるはずですよ。



中山 幹明